

三河港港湾計画意見交換会について

1. 目的

三河港港湾計画検討委員会における三河港の将来像の検討、港湾計画改訂に関する提言及び助言にあたって、水環境などに関連する事項について別途設置されている「三河港港湾計画環境アドバイザー会議」と意見交換を行う。

2. 設置根拠

三河港港湾計画検討委員会規約 第10条第1項

3. 出席者

三河港港湾計画検討委員会	: 戸田副委員長、加藤委員
三河港港湾計画環境アドバイザー会議	: 鈴木委員長、青木委員
事務局	: 愛知県

4. 開催状況

第1回三河港港湾計画意見交換会(令和3年2月22日)

(議事内容)

「三河港港湾計画検討委員会」及び「三河港港湾計画環境アドバイザー会議」におけるこれまでの検討状況について情報共有したうえで、主に海域環境に関連する内容について意見交換を行った。

三河港港湾計画 意見交換会(第1回) 資料 (検討委員会 検討概要)

- **第1回委員・幹事合同委員会(R2.1.28開催)**では、**三河港の現状や課題**について5つの分野別(物流、産業、人流・交流、環境、安全・防災)に整理し、議論。
- **第2回委員会(R2.12.25開催)**では、第1回委員会における主な意見(国の施策「PORT2030」と同じ方向性であることを確認)、近年の社会・港湾を取り巻く動向や三河港の特性を踏まえ、**将来像を検討するにあたっての5つの視点(自動車、コンテナ/コンテナ(RORO輸送)、人流・交流、エネルギー、安全・防災)**について議論。
- 現在、第1回・第2回委員会における意見を踏まえ、**三河港の将来像について検討中**。

三河港の現状

【物流】

- ・ 完成自動車以外の主要貨物がなく、貨物量が伸び悩み
- ・ 環境関連産業が進出・集積。同時に新たな動きに対する港湾機能が脆弱
- ・ モータープール用地の不足
- ・ 完成自動車と一般貨物が混在(神野地区)し、荷役・保管が非効率
- ・ コンテナ貨物の三河港利用割合が低下
- ・ 自動車専用船・コンテナ船の大型化
- ・ 低利用・未利用の岸壁が多く、老朽化が著しく進展
- ・ 安全な荷役のための静穏度が不足(神野地区)
- ・ 港湾関連車両と一般車両の混在による国道23号の渋滞
- ・ 高規格ターミナルの展開が活発化
- ・ 愛知県港湾物流ビジョン等による様々な構想を策定
- ・ トラックドライバー不足を背景とした内航定期航路開設の動きが活発化

【産業】

- ・ 背後は自動車産業が集積するが、当産業以外の新たな産業が見えにくい
- ・ 企業用地の不足
- ・ 三河港背後は全国屈指の農産物産出地域

【人流・交流】

- ・ 多数の観光施設(資源)等がある一方で、施設間の回遊性不足
- ・ クルーズ船が寄港(蒲郡地区)、国内へのスーパーヨットの寄港

【環境】

- ・ 六条潟等の干潟が存在する中で環境再生等の取組みを推進
- ・ 自然エネルギーを利用した発電所の立地が加速化

【安全・防災】

- ・ 過去の災害で三河港では高潮被害が発生
- ・ 大規模地震発生に対する港湾機能が脆弱

第1回委員会での意見

物流 産業 人流・交流 環境 安全・防災

同じ方向性を確認

『PORT2030』 中長期政策の方向性

将来像を検討するにあたっての5つの視点

①自動車

②コンテナ/
コンテナ(RORO輸送)

③人流・交流

④エネルギー

⑤安全・防災

近年の社会・港湾を取り巻く動向

- ・ 人口減少、少子高齢化の進行
 - ・ 第4次産業革命の進展
 - ・ 伸びゆくクルーズ需要
 - ・ 脱炭素社会への移行
 - ・ SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けた取り組み
 - ・ 自然災害の激甚化
 - ・ 新型コロナウイルス感染拡大を契機とした感染症への意識の高まり
- etc.

三河港の特性

- ・ 世界屈指の自動車流通港湾
 - ・ コンテナ貨物取扱港湾
 - ・ 背後圏のポテンシャル
 - ・ クルーズ船の寄港
 - ・ 豊かな自然環境・観光資源(施設)
 - ・ 新エネルギー、自然エネルギーの積極的導入
 - ・ 地震・高潮被害発生のおそれ
- etc.

第2回委員会での意見

物流

産業

人流・交流

環境

安全・防災

新たな国際・国内海上輸送に対応した競争力のあるみなと

市民や地域産業の安全・安心を支えるみなと

三河港の将来像

地域産業の持続的発展に資するみなと

港湾利用と地域・自然環境が共生・調和するみなと

人々を海へと誘う魅力あるみなとまち

三河港の課題 (第1回委員・幹事合同委員会資料にて整理)

【物流】

- 背後地の持続的な発展への貢献
 - ✓ 完成自動車の取扱を確実に維持し、さらなる競争力強化への対応を図りつつ、集荷・創貨による新規貨物取り込みへの対応(農産物、再生可能エネルギー関連企業立地、内航定期航路(RORO、フィーダー等)の誘致等)
- ソフト・ハード両面からの競争力強化
 - ✓ ふ頭の集約・再編による物流効率化及び適地での適正な利用
 - ✓ **自動車専用船・外航コンテナ船の大型化への対応**
 - ✓ 未利用・低利用岸壁の有効活用方策の具体化
 - ✓ **静穏度確保のための防波堤延伸**
 - ✓ AI やIoT 等を活用した、次世代コンテナターミナル整備への対応
- ボトルネックの解消(モータープール不足、交通渋滞、陳腐化、老朽化等)
 - ✓ **完成自動車の需要に対応した効率的な保管のためのモータープール用地の確保**
 - ✓ 老朽化岸壁の維持更新等への適切な対応
 - ✓ **物流の効率化及び安全性向上のための新たな交通体系の構築**

【産業】

- **自動車産業の機能強化に加え、新たな土地の確保も視野に入れた新規企業立地への対応**
- **農産物の輸出加工や保管に係る企業の誘致**

【人流・交流】

- みなとへの市民のさらなる誘導や観光施設(資源)間の回遊性の確保
- **クルーズ船・スーパーヨットの誘致及び受入れ機能・体制の強化**

【環境】

- **良好な自然環境の回復・創造への継続的な対応(干潟の保全・活用、緑地等の整備促進)**
- **環境再生に向けた取り組みや再生可能エネルギーの積極的導入の支援**

【安全・防災】

- 大規模地震発生時に対する港湾機能の強化
- 大規模地震対策以外にも、高潮対策等、自然災害発生に対する港湾機能維持への対応

三河港に求められる機能 (第1回委員・幹事合同委員会・第2回委員会での主な意見より抜粋・要約)

【物流】

- **自動車運搬船の大型化に対応した航路・泊地を確保することが必要**
- 人口減少を見据えた港機能の自動化が必要
- AIや自動走行など自動車産業・自動車技術の港という新機軸でのモデル化が必要
- 農産物の輸出・移出拠点が必要
- **静穏度の確保と用地不足を同時に解決する必要**
- **北西風が強い状況で安全かつ円滑な船舶の航行・係留への対応を図ることが必要**
- **東三河臨海線を始め臨港道路の整備が必要**
- 浜松三ヶ日・豊橋道路など三河港背後の物流網の大きな変化への対応が必要
- CO2排出削減の観点からも、フェリーやRORO船の寄港誘致によりモーダルシフトを進展させることが必要

【産業】

- **企業の維持的基盤づくりとして、コンテナを利用する企業誘致の強化が必要**
- **港の活性化のため、未使用の貯木場を埋立て企業を誘致することが必要**
- **田原地区の利用促進には水深10mの耐震強化岸壁が必要**
- **東三河地域・三遠南信地域における生産拠点の効率化という観点が必要**
- **新規貨物を取り込むために老朽化した港の再整備が必要**

【人流・交流】

- **クルーズ船の入港を増やし、物流と観光が両立できる港を目指すことが必要**
- スーパーヨットの誘致には、係留手続きの簡素化など停泊のし易さと絶対的に訪問したくなる魅力が必要
- 魅力的なまちづくりによる地域のブランド化が必要
- 人と車をきちんとすみ分ける形で、人が産業港を楽しめるような社会基盤整備が必要

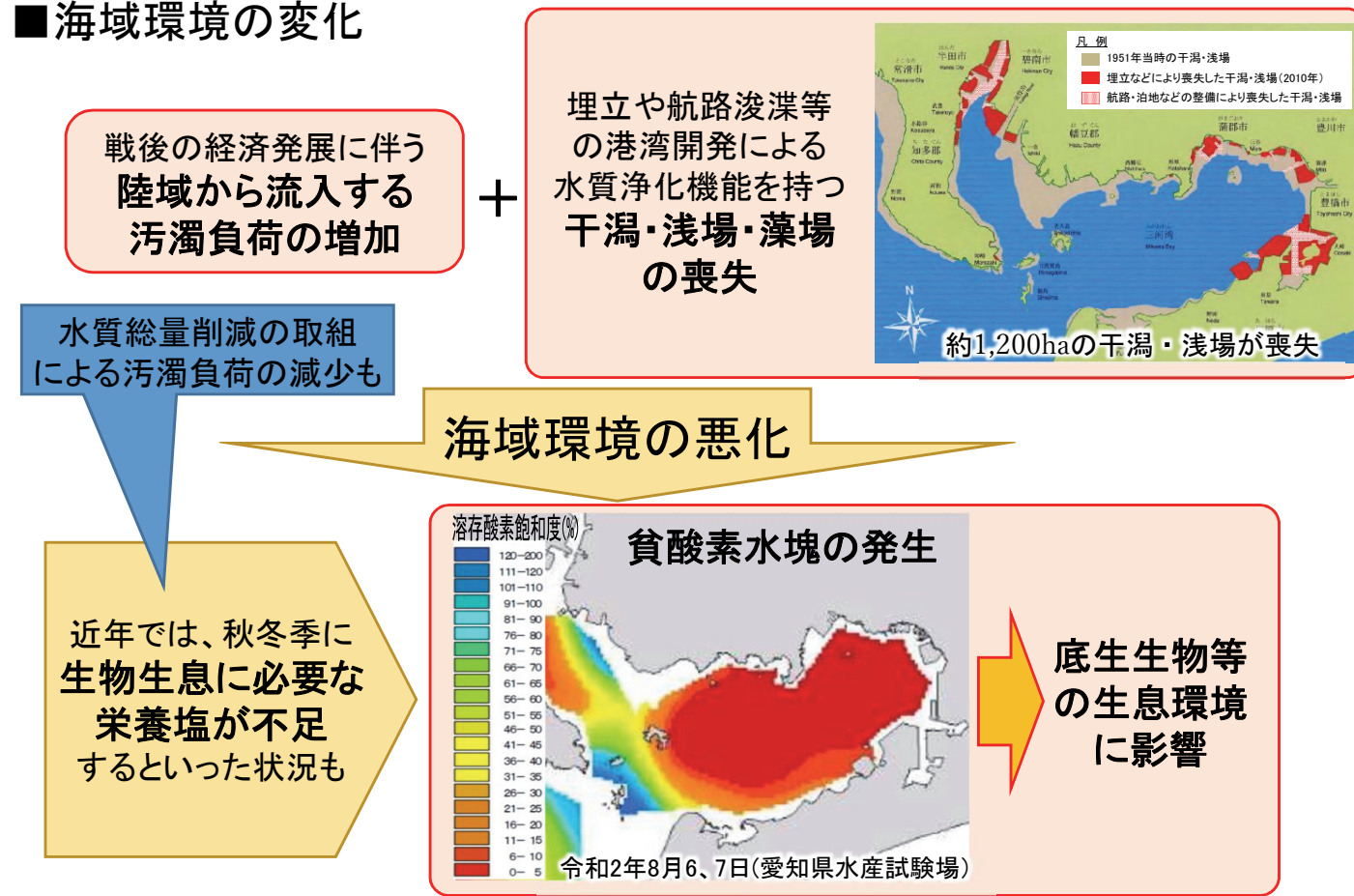
【環境】

- **用地の確保と水環境との共存が必要**
- **未利用地の活用について、CO2削減の観点からバイオマス発電所の検討が必要**
- **自然豊かな豊橋だから可能となるような、SDGsとしてPRできる環境保全の取り組みを検討することが必要**
- **鉄スクラップの効率的な取り扱いやリサイクル産業の集積という観点が必要**
- **再生可能エネルギー由来のグリーン水素は水素社会の中心的な役割を担っており、水素などを活用できる港整備が必要**
- **洋上風力発電に関して、着床式や浮体式など、三河港に適した方式は何かということなどを検討した上での港の再配置が必要**

【安全・防災】

- 南海トラフ地震のみでなく風水害の高潮による災害リスクを検討することが必要
- 岸壁の耐震化など三河港のハード整備による強靱化対策に配慮が必要
- 災害による生産拠点への影響度を考慮する必要
- 全国に先駆けて防災への取り組みを実践できる港であることが必要
- **季節的に北西風が強いため、静穏度の確保についても考慮する必要**
- 災害時の重要課題であるがれきの処理について、県内のみならず周囲を含めた災害対策として、また将来の港づくりの土台になるような計画が必要

■ 海域環境の変化



■ 伊勢湾再生が目指すべき姿

目標:「豊饒な宝の海を取り戻す」

目指すべき姿

干潟・浅場・藻場が保全・再生・創出され、かつ流入負荷が適切に管理されることにより、貧酸素水塊の形成が抑制され、豊富で多様な生き物が息づいている。

伊勢湾の沿岸や流域の人々が、豊富な魚介類のほか、美しい海岸や海域の景観、海とふれあえる快適な親水空間など、将来にわたって伊勢湾からの多様な恵みを楽しむことができる。

【参考】

伊勢湾・三河湾の海域環境再生に向けた有識者・関係機関等による検討組織

伊勢湾再生推進会議

- 健全な水・物質循環の構築
- 多様な生態系の回復
- 生活空間での憩い・安らぎ空間の拡充

伊勢湾再生海域検討会
・同三河湾部会

- 貧酸素水塊の抑制
- 適切な栄養塩管理等による生物資源量の回復
- 沿岸及び流域の人々の理解の醸成

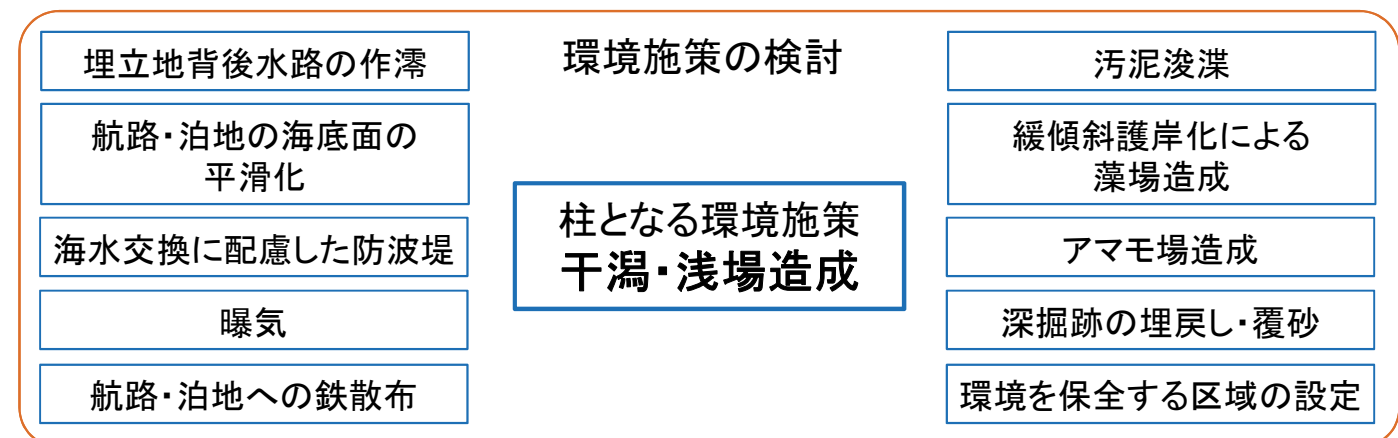
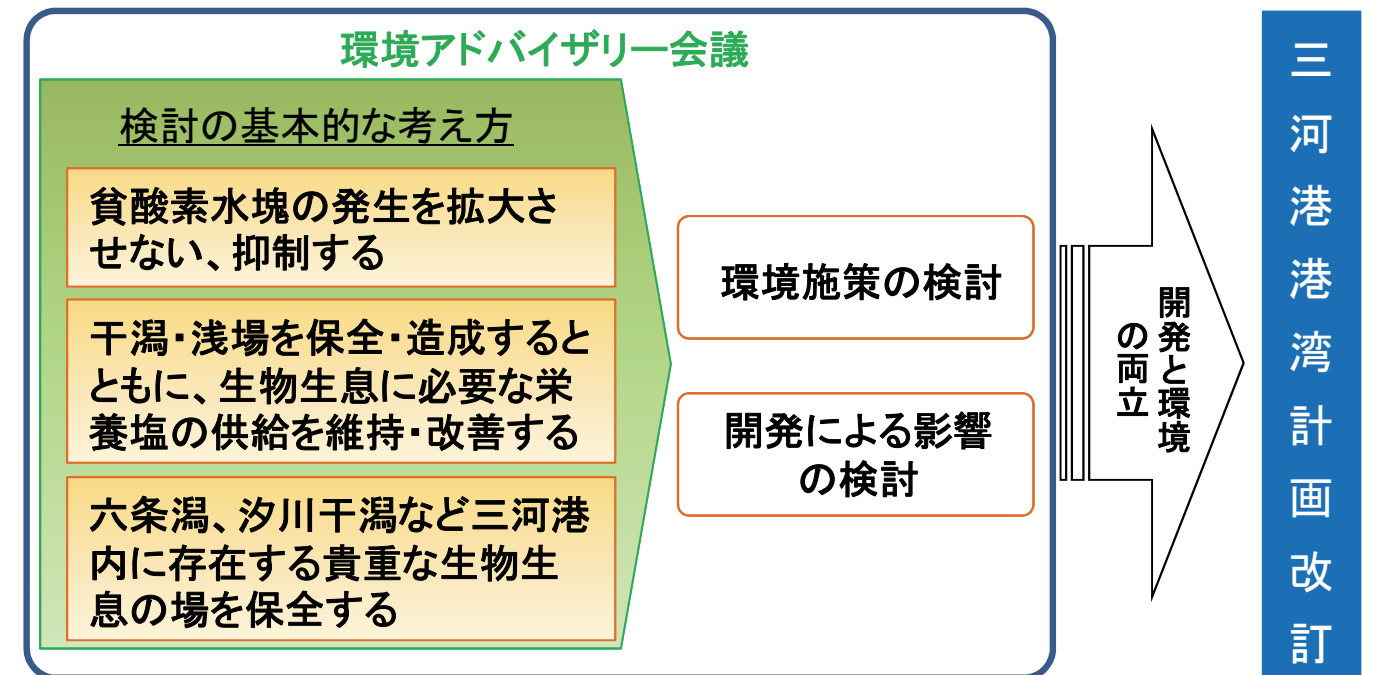
三河湾環境再生プロジェクト
推進委員会

- 多くの人々に三河湾に関心を持ってもらう
- 干潟・浅場・藻場の保全・造成を行う
- 適切な栄養の保持

■ 海域環境再生・保全の取組



■ 環境アドバイザー会議における検討



長期構想(案)に「豊かな海の保全・再生」の視点を追加